

**憲法しんぶん 速報版**  
 発行 憲法改悪阻止各界連絡会議 (憲法会議)  
 Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007  
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2018年5月14日 (月)  
 NO. 857号 本号3頁

## 「森友・加計学園疑惑徹底追及！」

### 安倍内閣は総辞職を！国会前連続行動」10日開催

10日、18:30から 議員会館前で、毎週木曜日開催されています「森友・加計学園疑惑徹底追及！安倍内閣は総辞職を！国会前連続行動」が行われました。この日は、加計学園問題で梁瀬唯夫元首相秘書官の参考人質疑が行われ、加計学園関係者と官邸で3回、別荘で理事長と1回面会していたことが明らかになり、「総理のご意向」が動いた疑いが濃くなり、国民の怒りが高まる中で開催されました。参加した600人は梁瀬氏の答弁は「うそ」と語り、「政治の私物化許さない」と声をあげました。

主催した総がかり行動実行委員会共同代表の福山真劫さんは「必ず真実を明らかにしてもらいたい」と加計・森友学園疑惑について語り、さらに「3000万人署名を集めきって、安倍内閣退陣と9条改憲阻止を実現しよう」と訴えました。



立憲民主党の武内則男衆院議員、共産党の藤野保史衆院議員、「沖縄の風」の伊波洋一参院議員があいさつ。藤野氏は「加計学園の真相究明のためにさらなる喚問が必要」と述べ、「市民と野党が連携して安倍政権の退陣、改憲阻止に向けて全力をあげよう」と語りました。

安政法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合、湘南等で奮闘している市民団体2団体から、梁瀬氏の参考人質疑での梁瀬氏の答弁、麻生財務大臣のセクハラ問題発言を厳しく批判するとともに、地域での粘り強い憲法改悪反対のたたかひの報告がありました。

次回は、17日(木)に同様に議員会館前で実施されます。そして、毎月実施しています「19日行動」ですが、今月は土曜日ですので、14:00～ 議員会館前で実施されます。

## 憲法記念日の集会 各地で開催 その2

### 大阪 5.3 おおさか総がかり集会 安倍9条改憲ノー！掲げ2万人

5月3日扇町公園にて行った「安倍9条改憲許さない！5.3おおさか総がかり集会」に2万人が参加しました。集会では冒頭、大阪憲法会議幹事長の丹羽徹さん(龍谷大学教授)が主催者挨拶を行いました。

駆けつけた日本共産党、立憲民主党、社民党、自由党の野党4党がそろって疑惑の徹底究明と安倍政権の退陣を訴えました。共産党の辰巳参院議員は「安倍政権に憲法を変え、語る資格はない。野党と市民の共同で安倍政



権打倒に全力をつくす」などと発言しました。

全国市民アクションから香山リカさん（精神科医）が連帯挨拶。森友学園問題を考える会の木村真豊中市議、子どもの未来を考えるママの会、大阪平和委員会青年学生部、ストップ辺野古新基地建設！大阪アクションなど各分野からスピーチしました。

その後、参加者全員で「憲法こわすな」「安倍政治ノー」のポテッカーを掲げて意思表示。集会宣言のあと、3コースにわかれてパレードしました。

ちなみに、5月7日段階の3000万人署名の到達数は、1,021,506筆です。

（「平和」5.7 大阪憲法しんぶん速報版 No.472 より）

## **兵庫** 9000人“安倍改憲やめよ”の大合唱

心配された天候は快晴、三宮東遊園地には、時間前から続々と参加者……高石ともやさんは、開会前に約50分も、戦争・平和、そして憲法を歌い続け、参加者は大喜びでした。

主催者を代表し、羽柴修弁護士は「立憲主義と民主主義の破壊に鉄槌を、安倍政権の退陣を求める！そのためにも3000万人署名の成功を」と格調高く宣言。和服美人の神田香織さんも東京からかけつけ、凜とした声で平和の講談を行いました。

集会アピールの提案はなんと16才の高校生が……公園の外側まで座り込んだ参加者も、心地よいプログラム、司会の小山乃里子さんの軽快なトークに満足の声が多く聞かれました。



パレードは三宮・元町の繁華街を3コースに分かれ行進、連休中あふれる人びとの共感もありました。

兵庫県の署名は、5月3日現在、21万6000筆に到達しました。兵庫県の目標140万のうち憲法共同センター構成団体の自主目標合計は92万です。団体と地域ごとの各自主目標に対し、団体では兵庫民医連が31%、新婦人県本部が30%の到達で、地域別では垂水区が一位で35%、兵庫区34%、尼崎市が33%と続いています。

（憲法改悪ストップ兵庫県共同センター週刊ニュースより）

## **憲法記念日にあたり各社が世論調査結果を報道(その3)**

これまで、朝日、読売、毎日の世論調査結果と、3社と産経の社説等の一部を紹介しましたが、今号では、日経の世論調査と社説と、東京新聞の社説の一部を紹介します。

## **憲法「現状維持」48% 「改正すべきだ」を上回る** **日経新聞**

◆5月3日は憲法記念日ですが、あなたは憲法改正についてどう思いますか。

- ・現状のままでよい48%
- ・改正すべきだ41%
- ・どちらともいえない4%
- ・いえない・わからない7%

◆憲法9条に条文を追加する憲法改正案について

自民党は、憲法9条の今の条文は変えずに、自衛隊の存在を明記する条文を追加する憲法改正案をまとめました。あなたはこの改正案に賛成ですか、反対ですか。

- ・賛成だ40%
- ・反対だ41%
- ・どちらともいえない6%
- ・いえない・わからない12%

◆憲法改正の国会発議の時期について

あなたは、憲法改正の国会発議はいつが望ましいと思いますか。

- ・今年秋召集の臨時国会23%
- ・2019年中17%
- ・2020年以降20%
- ・そもそも発議する必要はない25%
- ・いえない・わからない16%

ちなみに、◆内閣支持率は、

- ・支持する43%
- ・支持しない51%
- ・いえない・わからない7%

このように、日経新聞の世論調査では、憲法について「現状のままでよい」との回答が昨年4月の調査から2ポイント上がって48%を占めました。「改正すべきだ」は4ポイント下がり41%でした。昨年4月は賛否が拮抗していましたが、今回は憲法改正に慎重な意見が上回りました。

新聞紙面では、「首相の改憲戦略足踏み 年内発議見通せず」との表題で、「施行から71年を迎えた憲法を巡り、自民党は3月にまとめた憲法改正案をたたき台に与野党論議の加速を狙う。だが学校法人森友学園を巡る問題など相次ぐ不祥事に野党が反発し、論議は進んでいない。日本経済新聞社の世論調査では『現状のままでいい』が『改正すべきだ』を上回る。改憲案の年内発議をめざす安倍晋三首相の戦略は足踏みしている」と報じています。

## 改憲実現にはまず環境整備を と社説

社説「改憲の実現にはまず環境整備を」では、「憲法論議はこの1年、かつてなく盛り上がった」、「それで議論は深まったのか。むしろ逆だ。論点は拡散し、迷路に入り込んだ感すらある」としています。そして、「さらに言えば、自衛隊明記案が国民投票で仮に否決されても、自衛隊が合憲であるとの立場に変わりはないそうだ。可決でも否決でも合憲ならば、わざわざ国民投票を実施する必要があるのだろうか」と指摘。さらに、「2項削除を譲歩したにもかかわらず、新提案は国民に歓迎されたとは言いがたい。日本経済新聞社とテレビ東京の世論調査によれば、憲法改正について『現状のままでよい』は1年前の46%から48%へ増え、『改正すべきだ』は45%から41%へ減った」と。そして、「本当に改憲を望むならば、新提案にこだわらず、与野党の声に幅広く耳を傾ける姿勢を示すべきだ。いま求められるのは地道な環境整備である」と。

そして、「憲法審査会を再起動」し、「国民投票の仕組みの再検討」の「実務的な修正作業を通じて、与野党間の信頼を徐々に醸成していく。改憲項目の本格的な検討はそれからでも遅くない」と主張しています。

## 東京新聞 社説 「憲法記念日 平和主義の「卵」を守れ」

社説の冒頭、「自民党により憲法改正が具体化しようとしている。九条に自衛隊を明記する案は、国を大きく変質させる恐れが強い。よく考えるべき憲法記念日である」と主張しています。

そして、「ウグイスの巣にホトトギスの卵」の話で主張を展開し、「9条を考えてみる。基本的人権や国民主権は先進国では標準装備だから、戦後日本のアイデンティティーは平和主義といえる。国の在り方を決定付けているからだ。9条1項は戦争放棄、2項で戦力と交戦権を否認する。自民党はこれに自衛隊を書き込む提案をしている。安倍晋三首相が一年前にした提案と同じだ」。そして、「だが、奇妙なことがある。安倍首相は『この改憲によって自衛隊の任務や権限に何らの変更がない』と述べていることだ。憲法の文言を追加・変更することは、当然ながら、その運用や意味に多大な影響をもたらすはずである」と指摘。

さらに、「もし本当に何の変更もないなら、そもそも改憲の必要がない」と。「憲法学者の多くが違憲だ」「違憲論争に終止符を」というが、どの学術分野でも学説は分かれるものであり、改憲の本質的な動機たりえない」とも。

そして、「他国の戦争に自衛隊も加われば、およそ平和主義とは相いれない。日本国憲法というウグイスの巣にホトトギスの卵が産みつけられる一。『何の変更もない』と国民を安心させ、九条に自衛隊を明記すると、やがて巣は乗っ取られ、平和主義の「卵」はすべて落とされ、壊れる。それを恐れる」と述べています。

